

Title	ヘンリー・ジェイムズ: 『ガイ・ドンヴィル』(承前)
Author(s)	水野, 尚之
Citation	英文学評論 (2016), 88: [1]-[13]
Issue Date	2016-02-28
URL	https://doi.org/10.14989/RevEL_88_(1)
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

『ガイ・ドンヴァイル』（承前）

ヘンリー・ジェイムズ
水野尚之 訳

デヴニツシュ卿 夫人がどれほど会いたがつておられるか、遠慮なく言わせていただきたい！ 彼女は大変な資産とともに君の一族に嫁いだが、その際、一族に仕え、できればその永続に資するようになりたいという強い熱意を持つておられたのだ。先週亡くなった君の親類は、その甥御さんの跡を継いだのだが、その甥御さんというのも一人息子で若いころに亡くなってしまひドンヴァイル夫人を悲しませたのだった。夫人は二度未亡人となられていて、最初の結婚で可愛らしい娘をもうけられた。彼女の人生の大きな苦しみにとっては、どれほど大切であってもその慰めは完全なものとは言い難いが。

ガイ その苦しみとはあなたのおっしゃる息子の死のことですか？

デヴニツシュ卿 君の名前の継承者であり、貴い希望と思われていたもの、君の一族に開いた小さな花のことで

ガイ その花が摘み取られた時、一族は破滅する運命だったのですね！

デヴニツシュ卿 運命だったですつて？ そんなに容易くは破滅しませんよ！ 君は自分の血の中に長い過去を

感じませんか？ 耳に未来の音が聞こえませんか？ 君は次の世代を手の中に持つておられるのです！

ガイ（非常に動揺して）では一体何を、あなたをどうされることをお望みなのでしょう？

デヴニツシュ卿 今晚あなたをご親族の元へお連れすることをです。夫人はぜひあなたにお伝えしたいことがおありです。

ガイ 私はただ、自分の人生を送らせてほしいと夫人にお願いしたいです！

デヴニツシュ卿 それこそまさに夫人があなたにしてほしいと望んでおられることです！ 夫人はただ、あなたにそれが何かをお伝えしたいと、またぜひあなたにお会いしたいと望んでおられます。

ガイ これまで明らかにされたことがなかった様々な事柄について、捨て去ることを学んできたあらゆることに對して、私がどれほど大きな犠牲を払ってきたかを、あなたが分かっておられるのか、ドンヴィル夫人が分かっておられるのか、疑問に思います。

デヴニツシュ卿 もし君が君にふさわしい誇りを捨て去ることを学んだのなら、君は大変悪い教訓を学んだことになる！

ガイ 私は自分が果たすように任じられた役目の誇りほどふさわしい誇りを他に知りません。

デヴニツシュ卿 君が任じられた役目は立派な紳士の役目であり、その任務を果たす場所は君のご先祖の立派な古いお屋敷なのです！ お父上様がそれぞれ、その時代になされたようになされなさい、子供たちの声がお屋敷に鳴り響くようになされなさい！ ドンヴィル家の子供たちが増えれば、それだけ善良なカトリック教徒が増えるのです！ 子供たちのためにできることをおやりなさい、そうすれば君は教会のために十分努めたことになるのです！

ガイ すべての過去の過去と縁を切る、それも今すぐですか？ 玄関で引き返せ、耕していた鋤から手を離せと？
今はあまりに混乱し、あなたの知らせも奇妙すぎ、あなたの召喚も突然すぎます！

デヴニツシュ卿 君の優れた理解力と勉学の素晴らしい効果を当てにしました！ こうして会う前に君という人物に値段をつけていたとしたら、君と光栄にも話して以来その値段は倍になっています！ この世における君の場所には私には見えていたが、今は君がいかにそれを輝かせるかも見えるよ！

ガイ 私にはこの世に居場所はないのです！

デヴニツシュ卿 人生の楽しみに対して自分は死んでいると君が名誉にかけて誓うなら、私はただちに君とお別れするよ。楽しみのすべてを君に教えられたら嬉しい！ 紳士として君は想像できませんか？ お願いだから、君自身がその楽しみであることを覚えておいてくれたまえ！ 楽しみらしく進み出たまえ。イングラン
ドで第一の喜びとなる者として！ その資質は、君が自分の意思で捨て去ることのできない宝なのだ！ 亡くなった君の親戚は嘆かわしくもその宝をぬかるみに投げってしまった。どうかそれを拾い上げ、汚れを落とし、身に着けてくれたまえ！

ガイ ここへやって来られ私を苦しめる、誘惑されるあなたはどなたのですか？ 誰のですか？

デヴニツシュ卿 (微笑みながら) 君を「誘惑する」だって？ そのお言葉には感謝するよ！ 世界は広く、青春は短い。そして機会はもつと短い！

ガイ まさにそれこそ私があるに今おいとまする理由なのです。

デヴニツシュ卿 人生は甘く、友人は優しい。そして愛は、そう愛こそすべてです！ (ベヴァレル夫人、屋敷から再登場。傍白) 彼はここでそれをすぐ目の前にしている！ あなたはドンヴィルさんを私の手から救い

出そうと来られたのですか？

ペヴァレル夫人 我が家の田舎の食料を殿に我慢していただくようお願いしに参りました。

デヴィニッシュ卿 私の空腹は抗いようもなく大きいのですが、奥様、あなたのおもてなしは明らかにそれ以上です！

ペヴァレル夫人 ホワイト・パラー 白の間でささやかな食事がお待ちしています。すでにお会いされたかと思いますが、ハン

バーさんがあなたをお待ちです。

デヴィニッシュ卿 (ペヴァレル夫人からガイへと一瞬見た後で) 君の事情をペヴァレル夫人にお話してください。

奥様、彼をあなたのお手にお預けします！ (屋敷へと退場)

ガイ 私を引き抜こうとする彼は誰ですか？ 彼は何なのですか？

ペヴァレル夫人 あなたを引き抜く、とは？

ガイ 私のいとこが死にました。他に親類はいません。私が、古い屋敷、古い名譽、あらゆる義務や責任の唯一の継承者です。私がゲイの領地の所有者なのです！

ペヴァレル夫人 (大いに喜んで) 何という知らせ、何という知らせでしょう！ 胸が高鳴ります！

ガイ 私が我が家系すべての唯一の者、我が名すべての唯一の者なのです。

ペヴァレル夫人 それはこのようにして一瞬であなたの元に訪れ、あなたを捜し出し、あなたの手を取ったのですね？ ではあなたの人生が称賛されますように。彼が他の人たちの人生を引き受けられたのですから！

ガイ 彼は私の人生も引き受けられませんでしたか？ 私はそれを彼に任せませんでしたか？

ペヴァレル夫人 (一瞬だけ当惑し) お任せになった、そうです、部分的に！ しかし司祭でも財産を相続でき

ます！

ガイ そうです、司祭も財産を相続できます。それを貧しい人々に分け与えることも、教会に差し出すこともできます！

ペヴァレル夫人 （微笑みながら）それを少しばかり自分のものにしても罪にはなりません！ その財産は莫大

なものですか？ あなたはお金持ちになられるのですか？

ガイ お金持ちなんてとんでもない！ 領地は縮小し負債を負っています。そうとはいえ、彼らは僕がすべてを自分のものにすることを望んでいます。

ペヴァレル夫人 「彼ら」があなたに何を望んでいるのですか？ もし彼らが皆死んでしまったのなら、「彼ら」

とは誰なのでしょう？

ガイ ドンヴィル夫人は生きておられます。夫人には計画があります。夫人は家名に執着しておられ、それが続くことを望んでおられます。夫人は知らせをデヴニツシュ卿に託されました。

ペヴァレル夫人 来てくださり卿に感謝いたします！

ガイ 卿を憎みたいとさえ思います。今夜来てくださったことに！ 明日ならば、ちようど私が発った後だったわけですから。

ペヴァレル夫人 でも弁護士たちがあなたを捕まえたでしょう。彼らはフランスまでやすやすとあなたの跡を追ったでしょう。

ガイ 私を悩ませているのは弁護士ではありません！

ペヴァレル夫人 では何でしょうか、ドンヴィルさん？

ガイ そのような変化の予感、そのような命令の驚くべき声です！ 何世紀も続いてきた我が先祖の名前の声です！

ペヴァレル夫人 そうです、その名を身に着けよという命令、名誉と思ひ身に着け、そのために立派なことをせよとの命令です！

ガイ 古い古い名前を保ち、次の人々に伝えよ、今度は彼らがその名を与えることができるように、というのです！

ペヴァレル夫人 （気分が昂じて）彼らはあなたが結婚することを望んでいるのですか？

ガイ 私が結婚することを望んでいるのです。

ペヴァレル夫人 （熱心に）彼女と結婚することではなく？

ガイ 彼女とは？

ペヴァレル夫人 ドンヴィル夫人です、あなたのいとこの！

ガイ 何と、彼女は五十歳ですよ！

ペヴァレル夫人 （即座に）きつと六十歳でしょう！ ではそれは彼らの素朴な義務なのでしょう、あなたの家名のために弁じるのは。

ガイ 私は家名など少しも気にしていません！

ペヴァレル夫人 あなたは気にされています。しばしば私にそうおっしゃいました！ （諭すような口調で）あ

なたの家名のような名前は大きな義務なのです！

ガイ 大きすぎる、私が背負うには大きすぎるのです！

ペヴァレル夫人 あなたはお若く、お強く、前途に無限の人生がおありなのに、どうして大きすぎるでしょう？
ガイ 私の前途の人生はそのようなものではありません。私の前途にある人生は、より大きな義務にすぎません。
ペヴァレル夫人 あなたのより大きな義務はその呼びかけに耳を傾けることです！

ガイ 半時間前にはあなたは別の言葉を発しておられました。私が入っていくはずだった任務について、私には
甘美に思えた言葉でした！

ペヴァレル夫人 私は別のことについて話していましたので、別の言葉を発していたのです。半時間前にはすべてが変わっていたわけではありませんでした！

ガイ 私の心が同じであるのに、どうしてすべてが変われるのです？

ペヴァレル夫人 あなたはお心についてはっきりしておられますか？

ガイ いや、はっきりはしていません！ だから私は今夜ブリストル^①へ行き、マレー神父に会います。朝まで待つつもりはありません。

ペヴァレル夫人（懇願して）あなたはこれほどの伝統を、一分で放棄されるのですか？ 貴重なものを、まるで卑しいものであるかのように捨て去るおつもりですか？ 人生は素晴らしいものです、ドンヴィルさん。
あなたがそうおっしゃいましたし、あなたはそれをご存知です。

ガイ ではどうして奥様はいつも放棄についておっしゃったのですか？

ペヴァレル夫人（微笑みながら）それは、私がそう話した時は放棄するものが何もなかったからです！ 今ではたくさんあります。ドンヴィル夫人にお尋ねください！ 弁護士たちが言うように、あなたは夫人からご自分のためになることをお聞きになるでしょう。

ガイ 自分の誓いを忠実に守るといふこと以上にためになることがあるでしょうか？

ペヴァレル夫人 どの誓いのことをおっしゃっているのでしょうか？ あなたは何も誓っておられません。

ガイ おそらく形式としてはしていません。まだ船を燃やしたわけではありません。しかし私の唇には取り消せない言葉が浮かんでいます。私の人生は準備でなくて何だったのでしょうか？

ペヴァレル夫人 たぶんこのためのご準備でした。まさに今この時のためのご準備でした！ 理解して選ぶこと、知識を得て行動すること、この世で意義をもって生きるためのです！

ガイ（悲しげに皮肉に）あなたは「この世」とおっしゃいます。しかしこの世についてあなたは何をご存じでしょうか？

ペヴァレル夫人 こんな田舎に引つ込んでいてはほとんど何も知りません！ でも私はあなたからそれを聞いたのです！

ガイ 戻ってきましたら、下劣で邪悪なことをすべてをお話ししましょう。

ペヴァレル夫人（この言葉に飛びついて）そうです、戻ってこられたら！

ガイ その時は私がこの世について語るすべてが、私・た・ち・は前より安全であることをあなたに示すでしょう！

（そして依然として神経質に落ち着きなく妥協せず）しかしこれほどす黒い放棄に対してマレー神父は何と言われるでしょうか？

ペヴァレル夫人 あなたがずっと清浄な呼びかけに応えたとおっしゃるでしょう！ 神父様にはただちに使者を送ります。あなたの理由を神父様に叶うものにします。

ガイ その理由が私にとつても叶うといいますが！ しかしその理由は様々な考えや願望が混じりあったもので

す！ 私があなたには言えないことや話せない言葉などです！

ペヴァレル夫人 （なだめるように、励ますように） 真のあなたにおなりなさい。寛大なあなたにおなりなさい。そうすればすべてがあなたにとつて真つ直ぐになめらかなるでしょう！

ガイ 「真の私」、昨日の私にですか？ 私は突然それを永久に失くしたように思います！

ペヴァレル夫人 ではそれはすばらしいことです！ （熱を帯びて） あなたがご一緒されるとデヴニツシユ卿に

お伝えしましょうか？

ガイ （話をさえぎり、急に止まって） ペヴァレル夫人！

ペヴァレル夫人 （そわそわと考え、待ちながら） あなたをどうお助けできるでしょう？ あなたに何を言つて

あげられるでしょうか？

ガイ どれほどの友愛をお願ひできるでしょうか？ どれほどのご援助をいただけるのでしょうか？

ペヴァレル夫人 何をお願ひされても構いません。すべてを差し上げます！

ガイ （驚き、動揺して） すべてを？ （その時フランクを見て） 彼が望まないすべてを！

（フランク・ハンバーが屋敷から再登場）

フランク （興奮し、喜び、皮肉に） すばらしい騒ぎが起きそうだな、司祭様が法廷へか！

ペヴァレル夫人 （介入に動揺し、冷たく） デヴニツシユ卿からお聞きになりましたのね？

フランク 卿は新たな出発とドンヴィル家への一日の長旅を期待されています！ そして僕は、ねえ君、君の背

中を押すよ！ でも君は僕のヨークシャー産の子馬のように顔が白いが。（ガイの様子を不思議がり、あき

れたようにペヴァレル夫人に訴えながら） 彼がその申し出を受けないとおっしゃるつもりではありませんよ

ね？

ペヴァレル夫人 ドンヴィルさんはロンドンへ出発されます、明日の朝早く。

フランク （高揚し、共感をこめて）デヴニツシュ卿にそうお伝えに行きましようか？

ガイ ありがとう、フランク。僕に任せておいてくれたまえ！

フランク その方がいい。僕はペヴァレル夫人にお話ししたいことがある。

ペヴァレル夫人 （当惑して）あなたのお話は待っていた方がいいですわ、ハンバーさん。

フランク ああ、「また」は無しです！（自信に満ち、しかし皮肉に）どうして僕をすぐに家へ追い返されな

いのですか？

ペヴァレル夫人 お家があなたにとつてもっとも安全な場所です！

フランク ガイ、夫人がどれほど残酷に僕を扱われるか、君に証人になつてもらいたい！

ペヴァレル夫人 あなたに会いに四マイルも馬車に乗る時は、あなたを素晴らしく扱いますわ。（ガイに目を注

ぎ、箱を取り出しながら）しるしとして納めておいた古い宝石をあなたにお届けするために。

フランク （喜んで）ではそれは僕のためですか？

ペヴァレル夫人 あなたののためです！

フランク （箱を手にして）どれほど感謝申し上げたらいいでしょう？

ペヴァレル夫人 （素っ気なく）どうか感謝されすぎないで！（ガイに向つて）デヴニツシュ卿が安心される

ようになさいませんか？

ガイ （今目にしたものから奮起し、声を上げて）卿を安心させます。卿を受け入れます！（完全に変貌し、

熱を帯びた身振りで) ドンヴィル家よ永遠なれ! いざロンドンへ! (屋敷へと退場)

ベヴァレル夫人 (喜びに身を任せて) 彼は自由になられた! 自由に!

フランク (当惑し、冷静に) 「自由」ですって? おや、分かりました。でも、お分かりのように僕も自由で

す。別のニュースも漂っています。一時間前にここで、あなたがお答えとして私にくださると約束された良いニュースです。

ベヴァレル夫人 今はお答えできません。不可能です。どうか私に求めないでください。

フランク (愕然として) 一分一分を数えていた僕に「求めないで」ください、とは。僕に約束してくださいったのに「求めないで」ください、とは。

ベヴァレル夫人 私は何も約束しておりません! お願いですから私をひとりにしてください。

フランク (当惑し、仰天して) ではあなたが報いてくださるはずだった僕の忍耐は? あなたがくださったばかりのこの贈り物は?

ベヴァレル夫人 (いらいらし、ぞんざいに、ただ彼を追い払いたいとのみ願って) 申し訳ありませんが、あなた

の忍耐は無駄でした。ごめんなさい、贈り物は何でもありません。お別れのしるしです。

フランク (ぞつとして) 僕を拒絶するとおっしゃるのですね?

ベヴァレル夫人 完全にです、ハンバーさん! してもう二度とこの問題に戻らないでください!

フランク (怒って) 僕を待たせ続けてこられて、それが答えですか?

ベヴァレル夫人 前にはその答えは差し上げられませんでした。でも今ははっきりしています!

フランク (びくつとして) 「今」とはどんな謎でしょうか?

ペヴァレル夫人 謎ではありません。でもまた別のことなのです。（即座に）さようなら！

フランク 一体違いがどこにあるのです？（そして見抜き、困惑し）何ということだ。あなたは彼を愛しているのですね！

ペヴァレル夫人 （その言葉を激しく払いのけ、手を振って彼に別れを告げ）私に話しかけないでください。私を見ないでください。ただ私をひとりにしてください！（ほとんど横柄に）さようなら！

フランク （すばやく身を起こし、激しく努めて）さようなら！

（屋敷からデヴニツシュ卿再登場。木戸からフランク退場）

デヴニツシュ卿 （皮肉に）あなたが友を失われて残念です！

ペヴァレル夫人 （デヴニツシュ卿を見ておらず、驚き、混乱して）ハンバーさんのことですか？

デヴニツシュ卿 （おもしろがって）ハンバー氏ですか？ 寂しくなりますよ！

ペヴァレル夫人 （卿の態度に当惑し、彼の馴れ馴れしさに怒りながら）デヴニツシュ卿！

デヴニツシュ卿 今はドンヴィル君の最後の時です。今後あなたが彼にお会いできるか分かりません。彼には別

の場所です。若い女性を祭壇へ導いてもらう必要があります。ドンヴィル夫人の最初の結婚でのお嬢さんで、可愛らしく徳高いブレイジャー嬢です。千人に一人の花嫁、カトリックであり、美人で、財産もあります。

（ドンヴィルを見て）ドンヴィル家よ永遠なれ！

（屋敷からドンヴィル再登場）

ガイ お幸せなあなたとお別れです。

デヴニツシュ卿 女性とお別れするのにこれ以上ふさわしい時はないでしょう。我々が彼女とお別れすべき時で

す。来たまえ！

ガイ ドンヴィル家よ永遠なれ！

ガイとベヴァレル夫人の会話。ガイとデヴニッシュ卿退場。ベヴァレル夫人が舞台にひとり。

(注)

① ブリストル——Bristol イングランド南西部のAvon川に臨む市。Avon川河口に貿易港がある。